



岸和田市祭礼之図（部分）

市立岸和田市民病院

〒596-8501 大阪府岸和田市額原町1001番地
TEL.072-445-1000 FAX.072-441-8812
<http://www.kishiwada-hospital.com>



市立岸和田市民病院

KISHIWADA
CITY
HOSPITAL

付近図



広域図



救急医療と高度専門医療を重点に 地域の基幹病院としての使命を 果たします

市立岸和田市民病院 院長 小切 匡史

市立岸和田市民病院は、約90万人の住民を対象とする泉州二次医療圏の基幹病院として、これまで長きに渡り医療に従事してきました。従来より特に救急医療と高度専門医療に重点を置き、その両立を目指しています。

がん診療に関しては、国より「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、最新鋭のPET-CT装置を導入するなど専門的で質の高いがん医療を提供しています。また、専門の緩和ケア病棟を有し緩和ケアにも力を注いでいます。

新たに設けた患者支援センターでは、地域の医療機関・介護施設・行政などと連携を取りながら、自院完結型ではなく泉州地域が1つの医療体として総合的な医療を提供できるように推進しています。

今後も地域医療連携をさらに強固にし、オンラインで情報を共有できる地域医療連携システムを確立させたいと考えています。市民の方々はもちろん、地域医療に携わる先生方との交流も深めながら、皆さまに貢献できる急性期病院として誠心誠意の尽力をまいります。

温かい心を持って 良質で高度な医療をご提供します

基本理念

市民の皆さんが安心して心のこもった良質な医療を受けられる病院をめざします。
患者さん一人ひとりの権利と安全を確保し、絶えず向上心を持って皆さんに信頼されるよう努めます。

基本方針

- 市民の皆さんが安心して良質な医療を受けられるように高度・専門医療と救急医療を充実する。
- 患者さんが医療の中心であることを忘れず、個人の知る権利と決定する権利を尊重する。
- 患者さんと職員の安全を確保する。
- 地域の中核病院として地域医療連携を推進する。
- 職員の教育・研修を充実し、絶えず向上心を持って努力する。

患者さんの権利の尊重

市立岸和田市民病院は、患者さんの権利を尊重し、説明と同意に基づき、最善の医療を提供するように努めます。患者さんが医療に主体的に参加し、私たち医療者と信頼関係のもとに、共同して医療に取り組むことを大切に、以下のように宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受ける権利を尊重します。
- 十分な説明と情報提供を受け、検査、治療等を自らの意思で選択できる権利を尊重します。
- 自身の医療について他の医師等の意見（セカンドオピニオン）を求める権利を尊重します。
- 個人の尊厳とプライバシーが守られる権利を尊重します。



岸和田市民病院ロゴマーク

このマークは岸和田市の頭文字「K」と「若葉」をモチーフに大空に飛び立つ鳥をイメージしています。「若葉」には若々しさや健康、信頼関係。そして、質の高い医療を温かい心で市民の皆さまに提供する心を表現しています。また、飛び立つ「鳥」には地域医療の中核病院として、地域とともに発展していく姿を表現しています。



病院概要

大阪府岸和田市額原町1001番地
(泉州二次医療圏のほぼ中央)

病床数:400床
診療科:32科
医師:104名
看護師:355名
医療技術者:106名
(2018年1月現在)

- (財)日本医療機能評価機構認定病院
- 地域がん診療連携拠点病院(国指定)
- 地域医療支援病院
- 臨床研修病院
- 7:1看護職員配置

市立岸和田市民病院の主な特色



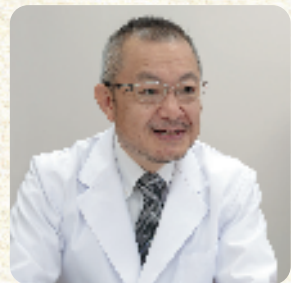
目次

地域医療／患者支援センター	3
救急医療／救急センター	4
がん診療／呼吸器センター	5
がん診療／放射線治療	6
がん診療／緩和ケア	7
がん診療／外来化学療法センター	7
産婦人科	8
口腔管理センター	9
人材育成	10
チーム医療	11
交流活動	13
機関指定	14
沿革	14

泉州地域を一つの医療体に

当院は、大阪府より「地域医療支援病院」の承認を受けています。開放病床の設置、二人主治医制の推進など地域の医療機関との連携を強化し、地域の皆さまへより良い医療の提供とサービスの向上に努め、信頼される病院として地域医療に貢献していきます。

患者さんに 総合的なサポートを



患者支援センター長兼乳腺外科部長
吉村 吾郎

2017年より従来の地域医療センターが新しく患者支援センターとして生まれ変わりました。これまで行っていた地域連携と医療相談の業務に新しく入退院支援を加えて、さらに患者さんを中心にした関わりの深い医療支援を行うのが目的です。入院が決定した時点から退院・転院まで、さらにはその後のケアに至るまでを包括的にサポートしています。

高齢化社会が進む中で、私たちだけで医療業務を完結することはすでに限界に達しています。そこで、地域の医療機関や介護施設、さらには行政とも連携を図り、泉州地域全体で患者さんを支援してまいります。

今後はより体制を整えて総合的かつ迅速な医療支援が行えるように努めていきます。

患者さんを全面的に支える医療を提供 【患者支援センター】

患者支援センターは、患者さんやご家族の様々な疑問や不安に対して、適切な対応による安心を確保し、患者さんの地域生活への早期復帰を支援することを目的としています。「地域連携」「医療相談」「入退院支援」を主な業務とし、かかりつけ医療機関との紹介・逆紹介や様々な相談への対応、また、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーを中心に、薬剤師・栄養士・検査技師などの専門スタッフが加わり、入院決定時から退院・転院まで患者さんやご家族をサポートできる体制を整えています。



24時間・365日体制で すべての救急診療を受け入れ

当院では泉州地域の基幹病院として、24時間・365日積極的に救急診療を受け入れています。院内の各診療科協力のもと、当直やオンコール体制により救急処置や緊急オペにも対応するなど院内全体で受け入れ体制を整えています。

高度な医療で迅速に対応する【救急センター】

当院の外来救急診療の受け入れ件数は年間約16,500件（うち救急車搬送件数約5,000件）入院数約2,000人への、泉州地域の救急診療の重要な役割を担っています。CT（コンピューター断層撮影）・MRI・血管造影（アンギオ）検査装置など、様々な高度医療機器と精度の高い画像診断により救命機会の拡大に努めています。また、手術器械の展開を一元化できるクリーンホールを有しており、スムーズに手術を行うための設備体制が整っています。



救急体制を整え迅速かつ 的確な医療連携を図る



救急センター長兼脳神経外科部長
橋本 憲司

当院に救急搬送をされる患者さんは、内科系・小児科系の救急疾患をはじめ、交通外傷や持病の調子が急に悪くなった方など多岐に渡ります。

泉州地域では、吐血・脳卒中・小児救急などにおいては、輪番制が確立しており、迅速な受け入れと的確な医療処置を地域全体で行っています。たとえば、一つの医療施設で救急車の受け入れが困難な状態になったとしても、輪番の医療施設が最終的に受け入れを果たすシステムになっています。大阪府下においても、泉州地域は救急体制が比較的整った地域と言えるでしょう。

また、他の医療施設や救急隊との定期的な会議を設け、確立された救急システムが常にスムーズに機能するように、日頃から連携を図っています。

地域がん診療連携拠点病院としての責務を地域と共に果たす

当院は泉州地域で唯一、国から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。診療科を超え・職種を超えたスタッフ体制を整え、専門的で質の高いがん医療の提供、がん患者・家族等に対する相談支援、緩和ケアの充実など、地域全体におけるがん診療の水準を高めるための中心的な役割を担っています。

地域連携で二重読影制度を採用し早期発見を実現する



呼吸器センター長
加藤 元一

肺がんは年々増加傾向にあり、当院では南大阪地区の肺がん患者さんのほとんどが来院されるほどの設備と技術を整えています。

また、岸和田市と医師会との合同健診にも力を注ぎ、数パーセントだった検診率が今では約25%になりました。これは二重読影制度による効果で、その結果、多くの患者さんの早期発見につながっております。

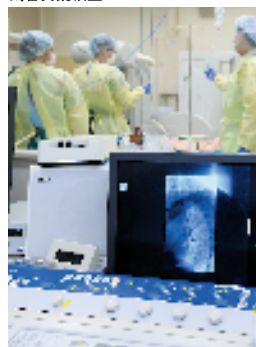
治療に関しては、病状（ステージング）をしっかりと把握してスタッフや他の診療科との連携をスムーズに取りながら、患者さんにとって適切な施術を行っています。

今後は早期発見のために肺がん検診の積極的啓発を行い、さらに地域医療の先生方との連携や緩和ケアにも力を注いでいきます。

診療科連携で的確ながん診療を提供する「呼吸器センター」

2016年にすべての呼吸器疾患を診療できる南大阪唯一の病院として、最新かつ最高の医療を提供する呼吸器センターを開設しました。呼吸器内科・呼吸器外科が共同で診療を行い、肺がん患者さんの診療では腫瘍内科・放射線治療科・緩和ケア内科とも連携し、手術・放射線治療・免疫療法など最適な診療方法を提供しています。また、呼吸器外科では肺がんと自然気胸に力を注ぎ、手術全体の約80%を胸腔鏡手術（VATS）で行うことで患者さんへの負担を軽減しています。

気管支鏡検査



PET-CT



胸部診療



高度なスキルでがん患者さんを支援する「がん相談支援センター」

がんに関する症状・治療・薬剤・検査・医療費の支払い、また療養生活・社会復帰など、患者さんやご家族の様々な疑問や悩みの相談窓口としてがん相談支援センターを設置しています。相談員である看護師やソーシャルワーカーは困難な相談にも対応できる高いスキルを身に付けるよう日々研鑽しています。

がん相談



最新の放射線治療技術でからだにやさしいがん治療を目指す

放射線治療はここ20年で目覚ましい進歩を遂げました。画像診断の向上やICT（情報通信技術）の発展などにより、がんを精密に狙う技術と、周辺の正常臓器の被ばくを最小限にしつつ、がんの形状にあわせて十分量の放射線を照射する技術が飛躍的に向上しました。当院では、外部照射装置を用いた、定位放射線治療・画像誘導放射線治療・三次元原体照射・強度変調放射線治療といった最新の高精度放射線治療が提供可能であり、副作用の少ない、高い効果が期待できる、からだにやさしい放射線治療を目指します。

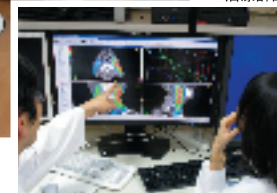
がんの形状にあわせた線量分布を実現する強度変調放射線治療（IMRT）

IMRTは、厳密なコンピュータ制御により、マルチリーフコリメータとよばれる短冊状の遮蔽板を動かしながらX線ビームを照射することにより、病巣の形状に凹凸があってもなるべくその形にあわせて十分量の放射線を投与し、なおかつ周辺の重要臓器の照射線量を低減することが可能な照射技術です。前立腺がん・頭頸部がん・脳腫瘍などにおいて有効です。

外部照射装置（リニアック）

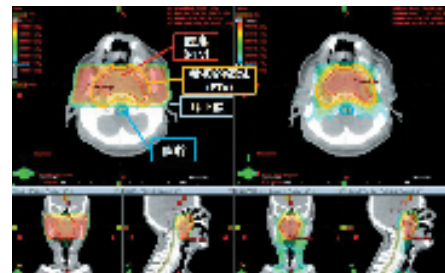


治療計画



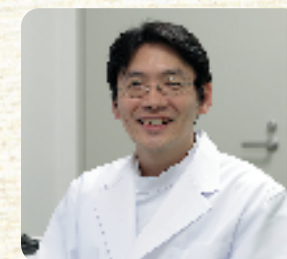
上咽頭がんの例

左：従来法による線量分布 右：IMRTによる線量分布



IMRTでは腫瘍（PTV）に対する高線量を確保しながら、脳幹、耳下腺の線量低減を実現している。

IMRT 開始にあたって



放射線治療科部長
小倉 昌和

当院では、2017年度に泉州地域で初めて保険診療によるIMRTを開始しました。IMRTは、限局性の固形がんが保険適応となっており、たとえば前立腺がんにおいては、従来の三次元原体照射と比べて、直腸線量を低減しつつ前立腺線量を安全に10%増加させることが可能であり、頭頸部がんにおいては、病巣に十分な線量分布を確保しつつ、唾液腺・脳・脳神経などの重要臓器の線量を低減させることで、治療後の口腔乾燥や視力障害、聴覚障害などによるQOL低下を最小限にすることが期待できます。

一方で、IMRTを含む高精度放射線治療を実施するには、綿密な治療計画の立案と、計画どおりに装置が動作し確実に線量が照射されるための厳密な精度管理が求められます。

当院は、常動放射線治療医二人体制をとり、医学物理士、放射線治療専門技師、看護師とともに一つのチームとなり、それぞれの技量、持ち味を活かして、患者さんに安心して治療をうけていただけるよう心がけています。